

氏録に、猪甘首と云姓も見えたり、さて猪甘と云物は公の猪を飼職を仕奉る者なり、

〔難波江六〕獸肉を喰ふ事エトリ 穢多

友人山田昌榮の説に、近日人多く獸肉を喰ふ、よからぬことなり、攝生に^レわるし、いかで禁斷の御令もがなといひて、道三翁養生物語と、太田氏の梧窓漫筆後篇とを證とす、

道三翁養生物語にいはく、天照太神ノ御慈悲ト大己貴尊ノ知惠ニテ、肉食ハケガレニタテ、戒メテクハセ玉ハズ、

太田氏梧窓漫筆後編上にいはく、我邦ハ四面大海故、魚類極テ多シ、故ニ人獸肉ヲ食フコトヲ不好、四足ヲ食ヘバ穢レ也トテ、國家ノ令甲ニモアリ、○註 世人モ斯ク覺ヘテ忌ミ嫌ヅ、是モ佛

法仁柔ノ餘功ナルベシ、然ルヲ香川脩徳トイヘルモノ、邦人ハ獸肉ヲ食ハザル故ニ虛弱ナリナドト云オドセシ故、近年ハ山國ノ人ノミナラズ、海邊ノ海肉多キ所マデ、皆々好テ食フコトニハナリタリ、

ニハナリタリ、

孝云、香川脩徳太沖父ト云モノ、本草藥選三卷ヲカキテ、其下篇鹿ノ條ニ、本邦ニテハ獸肉ヲ忌避ト云ハアヤマリニテ、古人禁忌シタルコトハキカヌトイヒ、其證ニ仁徳紀三十八年天武紀

四年持統紀五年延喜式ナドヲ引用シタリ、延喜式ハ、下文附録ニ詳ニ出ス、

ナレド猶古昔ノスガタヲ、孝ニ詳ニ聞マホシトイフ、孝ツラ^レ攷フルニ、本邦ノ昔、獸肉ヲ食ヒタルコトハ、猪甘首ト云姓アルニテモシラレタリ、姓氏錄古事記下卷ニ我者山代之猪甘也トアリ、傳廿ハ養ナリ、例アリ、古事記中卷ニ、弓端之調ト云コトアリ、本居氏云、上代ニハ、獸肉ヲ食シ、又其皮ヲ衣、褥ナドニセシコトモ多カリシ故ニ云々、傳廿三

ヤウニナレルハ、必佛氏ニマドヘルヨリノコト也、續日本紀一卷十、天平四年七月丁未詔、和買畿内

百姓畜猪四十頭、放於山野、令遂性命トアルヤ始ナラム、サテ又獸肉ヲ食ヘバ穢ルト云フハ、後世